

## 日本学術会議 第 80 回 総会報告

日本学術会議第 80 回総会は、10 月 22 日 9 時 40 分から同講堂において開催された。今総会には、20 件を超える提案事項があり、できるだけ審議に時間をあてるため、諸報告は文書だけによることとし、口頭報告は、特に追認・承認を必要とする事項に限って行われた。続いて第 6 部、食糧需給問題特別委員会、栄養・食糧科学研究連絡会から提案された「食糧自給力の向上について」の勧告案が審議された。しかし多数の会員から、このままでは賛成できないという発言があり、提案者により大幅に修正されたが、なおも多くからの反対があったため、さらに修正を行い、翌日審議することとされた。続いて発展途上国学術協力問題特別委員会提案の「発展途上国からの留学生を対象とする情報センターの設置について」(勧告)が採択された。午後は、最初に国公立研究機関問題特別委員会から、第 9 期以来の本会議における検討をとりまとめて提案された「国・公立試験研究機関の運営の改善について」(勧告)が採択された。続いて、第 7 部・癌研究連絡委員会老化分科会提案の「国立老化・老年病センター(仮称)の設立について」(勧告)および第 7 部と学術情報生産・流通問題特別委員会提案の「医学情報センター(仮称)の設立について」(勧告)が採択され、16 時 45 分 1 日目の議事を終了した。

2 日目の 23 日は 10 時開会、第 5 部提案の「日本工業技術機構(仮称)の設立について」の勧告案について審議が行われた。この提案は、総会前日の 21 日、特に連合部会が開かれ前もって説明がなされていたものである。しかし、多くの疑問や懸念が述べられたので提案者により修正され、24 日に改めて審議することとされた。次に、第 7 部提案の「医学教育会議(仮称)の設置について」の勧告案について審議が行われたが、この会議の法律上の性格が問題にされ、この点を修正のうえさらに翌日審議することとされた。続いて、第 4 部、地質学研究連絡委員会、地球化学・宇宙化学研究連絡会、南極研究連絡委員会提案の「隕石科学及び隕石による宇宙科学研究の振興について」(勧告)、学術体制委員会提案の「研究者養成の振興策について」(要望)、科学史・科学基礎論研究連絡委員会提案の「生産に関連する科学・技術資料の保存・管理・利用について」(要望)、研究費委員会提案の「大学における経常的研究費の増額につい

て」(要望)、国際学術交流委員会提案の「日本学術会議の国際学術交流に必要な予算の増額について」(要望)がそれぞれ審議の上採択された。続いて、前日に提案された「食糧自給力の向上について」勧告の修正案が審議されたが、なお反対意見が多く、投票による採決の結果賛成少数で可決されるに至らなかった。続いて海洋学研究連絡委員会、水産学研究連絡会提案の「海洋科学調査について」の要望案はなお検討の必要ありとして、提案者により取り下げられた。2 日目は 18 時に終了した。

3 日目の 24 日は、最初に会長から前日の「食糧自給力の向上について」の提案は、総会で可決されなかったが、本会議はこの問題の重要性を否定するものでないので食糧需給問題特別委員会の名でこれまでにまとめた見解や資料を外部に発表することを了承されたい旨が述べられ、承認された。続いて第 7 部、実験動物研究連絡委員会提案の「動物実験ガイドラインの策定について」(勧告)が採択された。前日の「日本工学技術機構(仮称)の設立について」の勧告案は、提案者により「工学技術振興の方途を早急に講ずることについて」の要望案にかえることを提案され、活発な討論の後、投票により可決された。次に前日提案の「医学教育会議(仮称)の設置について」(勧告)の修正案が採択された。この後、科学者の地位委員会提案の「外国人の国公立大学専任教員任用について」(見解)、第 7 部、第 3 部、第 5 部提案の「労働衛生の効果的推進について」(要望)、国際協力事業特別委員会、環境・健康問題特別委員会、自然保護研究連絡委員会提案の「環境科学研究の推進について」(申入れ)、環境・健康問題特別委員会提案の「騒音問題の重要性を訴える」(声明)、原子力平和問題特別委員会提案の「放射性物質を使用する際の心構えについて科学者・技術者に訴える」(声明)、会長提案の「国際紛争の平和的解決の必要性について」(声明)が採択され、16 時 30 分全議事を終了した。

本総会は、提案件数が多かったが、多くの会員から活発な意見が述べられ、第 11 期最後の総会にふさわしいものになった。

なお、本総会の出席率は、1 日目、85.6%、2 日目 86.1%、3 日目 82.3%であった。

(日本学術会議広報委員会)